

2020年7月1日(水)

「防災・災害ボランティアミーティング(セミナー)」参加者へのコーディネーションを行いました

地球温暖化によると思われる気候の変動により、ここ10年ほど7月から9月にかけて、風水害や土砂災害へのリスクが顕在化し、災害ボランティア活動へのニーズが高まります。

こうした状況に対応することを目的に、防災教育・災害支援コーディネーターの宮崎賢哉さんによる「防災・災害ボランティアミーティング(セミナー)」がオンライン上で開催され、ボランティア支援室では本学からセミナーに参加した参加者へのコーディネーションを行いました。

- ・日時：2020年7月1日(水) 18:15~19:45
- ・会場：ZOOMによるオンライン開催
- ・講師(ホスト)：宮崎 賢哉さん(防災教育・災害支援コーディネーター)
- ・対象：東洋大学、成蹊大学、早稲田大学、法政大学、立正大学、青山学院大学の学生・教職員
- ・本学からの申込者数：学生6名、教職員2名

本企画は、本学社会学部開講科目「ボランティア活動入門」(榊原圭子教授担当科目)に宮崎さんが外部講師として登壇した際の講義内容を改訂し、6大学の学生・教職員を対象を拡大し開催されたものです。セミナーは合間にグループワークを挟み、前半が災害支援ボランティア活動、後半が防災ボランティア活動を主なテーマとした構成でした。

2020年、新型コロナウイルス感染症により、災害ボランティア活動の考え方にも影響が出ています。具体的には、いわゆる「三密」を避けるため分散避難や在宅避難に備えた避難の想定をすること、また全国からボランティアが駆けつけることが難しくなるため、被災地域内で支援が完結する仕組みが構築されることが重要になるということです。セミナーで紹介のあったJVORD(認定NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)は6月、「新型コロナウイルスの感染が懸念される状況におけるボランティア・NPO等の災害対応ガイドライン」を発表し、コロナ禍における災害支援ボランティア活動のあり方を提案しています。詳細は<http://jvoad.jp/guideline/>をご覧ください。

風水害や土砂災害、そして地震災害など、災害はいつ、どのような形で発生するかは分かりません。「想定外」をつくらないようにするためには、大切な何かを守るために一人ひとりがいま、できることを積み重ねること。そのことが災害時になにができるのかをつくることにつながる、ということを確認したセミナーとなりました。(ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター 日比野 勲)

